

福島民報出版文化賞特別賞受賞

『^{じん の う し ょ う と う き}神皇正統記 只見本^{えい いん} カラー影印・簡訳・解説』



▲受賞報告をする久野さん(右)、渡部教育長(左)



▲只見町で発見された『神皇正統記只見本』

只見町教育委員会が刊行した『神皇正統記 只見本 カラー影印・簡訳・解説』が、第44回福島民報出版文化賞の特別賞を受賞しました。

この本は、黒谷の民家から発見された福島県指定重要文化財『神皇正統記只見本』の全ページをカラーで掲載し現代語訳を付けたものです。訳・解説は、久野俊彦さん（東洋大学講師）が執筆しました。今回の受賞は、「貴重な史料を広く読める形でまとめたことに意義がある」と評価され、特別賞に選ばれました。

『神皇正統記』とは

『神皇正統記』は延元4年（1339）秋に、公家の北畠親房が、南北朝の動乱の最中に筑波山麓の小田城（現茨城県つくば市）で著した歴史書です。イザナギ・イザナミなどの日本の神々から神武天皇までと、神武天皇から後村上天皇即位までの神話と歴史が叙述されています。歴史叙述の間に、仏教論や故事説話、政治倫理などが織り込まれています。

『神皇正統記 只見本』とは

『神皇正統記只見本』は、上方で学んで東国に下向した真言僧祐俊が天正15年（1587）に書写した写本です。『神皇正統記』の中世写本としては福島県初の発見であり、年代の明らかな写本としては諸本の中で6番目の古写本です。装丁は、綴葉装（てっちょうそう）で綴じられ、破損がほとんどなく題簽（だいせん）・綴じ糸も当時のままと考えられています。書中には、振り仮名や漢字の音読み・訓読みの指示符号が付き、歴史的なできごとには付箋がつけられています。また親本が、高野山の主要

な塔頭（たっちゅう）である龍光院の僧によって書写されており、素性が明らかな写本とされています。

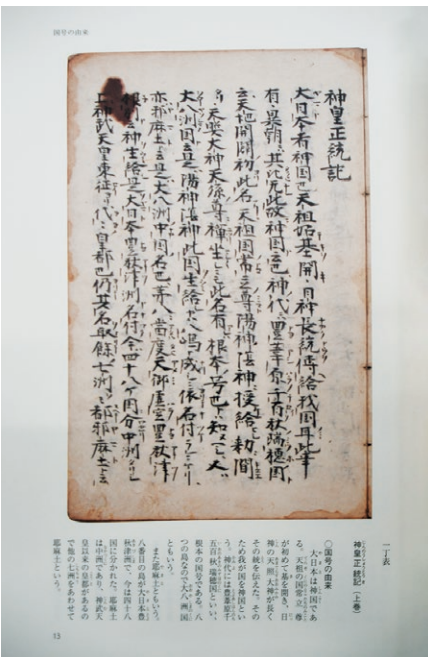
古典籍に触れる

『神皇正統記 只見本 カラー影印・簡訳・解説』では、『神皇正統記只見本』を1ページずつ現代語訳と併せて掲載しているほか、わかりやすい解説も掲載しているため、これから古典籍に触れたいと考えている方にも読みやすい書籍となっています。

この機会に貴重な文化遺産に触れてみてはいかがでしょうか。

購入についての問合せ

米屋書店 ☎82-2778
 頒価2500円



▲『神皇正統記 只見本 カラー影印・簡訳・解説』では、1ページで原文と簡訳を対照して見ることができ、読みやすくなっています。